

令和5年度

2年生

授業展開計画

滋賀県立甲西高等学校

目 次

ページ

1	国 語	
(1)	論理国語	1
(2)	文学国語	4
(3)	古典探究	7
2	地歴・公民	
(1)	日本史探究	9
(2)	世界史探究	11
(3)	公 共	13
3	数 学	
(1)	数学Ⅱ	15
(2)	数学B	19
4	理 科	
(1)	物理基礎 (生物選択者)	22
(2)	物理基礎 (物理選択者)	24
(3)	物 理	26
(4)	化 学	28
(5)	生 物	30
(6)	地学基礎	32
5	保健体育	
(1)	体 育	34
(2)	保 健	36
6	芸 術	
(1)	音楽Ⅱ	38
(2)	美術Ⅱ	40
(3)	書道Ⅱ	42
7	外国語	
(1)	英語コミュニケーションⅡ	44
(2)	論理・表現Ⅱ	46
8	家 庭	
(1)	家庭基礎	48

令和5年度 国語科

科目名	論理国語		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
使教材	<p>教科書：「高等学校 論理国語」(第一学習社)</p> <p>副教材：「改訂版 ほんものの力がつく現代語練習帳ことのは」(いいずな書店)、「評論速読トレーニング1000」(数研出版)、「新訂総合国語便覧」(第一学習社)、「三訂版 よむナビ現代文2 必修編」(いいずな書店)</p>				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、ノート、ふりかえりシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元名	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	5	自他の「間あい」(鷺田清一) 評論のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> 言い換えや比喩を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが重要旨を把握する。 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 「アイデンティティには必ず他者が必要だ」という筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 自他の関係性についての筆者の主張を積極的に自身に引きつけて考え、表現の仕方を工夫して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 要約 定期考査(思考力・判断力) 	<ul style="list-style-type: none"> ノート
	5	6	日本人の「自然」(木村敏) 評論のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的につかみ、筆者の問題意識や執筆意図に目を向ける。 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが重要旨を把握する。 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査(思考力・判断力) 	<ul style="list-style-type: none"> ノート

1 学期	6	5	手の変幻（清岡卓行） 評論のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・『「欠落」や『無』が重要な役割を果たしている芸術作品』について、調査したことをまとめたり発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート
	7	4	推論とは何か（仲島ひとみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検証し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を学ぶ。 ・文章を分析し、さまざまな観点から概要をまとめる方法を学ぶ。 ・推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート
2 学期	9	7	ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・実用文には書き方のルールがあり、場面や目的に応じて書き方に工夫が必要な点を理解する。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。 ・特定の資料について、さまざまな観点から概要などをまとめる。 ・自分の考えが的確に伝わる文章になるように、表現のしかたを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりシート ・ノート
	10	8	働かないアリに意義がある（長谷川英祐） 評論のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> ・アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。 ・アリの生態を紹介しながら人間社会の問題点について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・判断力） ・意見文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ふりかえりシート
	11	8	AI時代の社会と法（小塚荘一郎） 評論のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> ・AI（人工知能）の発展がもたらす社会と法の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・AIの発展がもたらす社会と法の変化について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート
	12	7	なぜ多様性が必要か（福岡伸一） 評論のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> ・動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・「生物多様性が必要だ」という筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート

3 学 期	1	6	コミュニティ空間としての都市（広井良典） 評論のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> 情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 将来の社会のあり方について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 要約 定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
	2	6	「第二の身体」としてのメディアと技術（若林幹夫） 評論のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 要約 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
	3	4	対話の意味（細川英雄）	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 要約 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ノート
	3	4	身体的表現の関係性（野村雅一）	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 要約 定期考査 	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業中や家庭学習の課題には、間違いをおそれずに粘り強く取り組みましょう。言葉は覚えるだけでなく、活用して初めて自分の力となります。授業で学んだ評論の構成や表現上の工夫も、自分の意見文や課題作成に積極的に取り入れましょう。

論理的思考を鍛えるとともに、漢字や語句について意味・語源・間違えやすい所などを意識してしっかり覚えていくようにしましょう。高校生のうちに語彙を豊かにすると、表現の幅が広がります。

令和5年度 国語科

科目名	文学国語		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
使用教材	<p>教科書：「高等学校 文学国語」(第一学習社)</p> <p>副教材：「新訂総合国語便覧」(第一学習社)</p>				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、ノート、ふりかえりシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	8	山月記（中島敦） 文学のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の特徴が作品に及ぼす効果を考え、人が虎になるという怪異の意味を踏まえて作品の主題を考える。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品の解釈を踏まえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ふりかえりシート
	5	3	小諸なる古城のほとり（島崎藤村）	<ul style="list-style-type: none"> ・文語定型詩の構成やリズムに親しみ、情景にこめられた心情を理解する。 ・象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ふりかえりシート
	2	2	永訣の朝（宮沢賢治）	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の中の自然に描かれ方に注目し、「いもうと」と「わたくし」それぞれの心情を想像しながら味わう。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ふりかえりシート

1 学期	6	7	檸檬（梶井基次郎） 文学のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品が成立した背景や他の作品との関係を踏まえて解釈を深める。 ・「私」の心の動きを作品中の表現に基づいてたどり、「檸檬」が「私」に及ぼした影響を捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品の解釈を踏まえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ふりかえりシート
	7						
2 学期	9	9	旅する本（角田光代） 文学のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> ・短編小説の特色を理解し、本との再会を繰り返すたびに実感される「私」の変化を読み取る。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する。 ・作品全体における「その本」の意味について、各時期の「私」の受け止め方を踏まえて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート
	10	9	テーマを決めて短歌・俳句を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌・俳句を読んで文体や表現の技法に注意して、人物の心情や情景を描写する方法を学ぶ。 ・同じ題材で短歌、俳句を創作し、批評し合う方法を学ぶ。 ・文体の特徴や修辞のはたらきなどを考慮して、読み手を引きつける工夫を学ぶ。 ・文体の特徴や表現の技法について理解し、活用する方法を学ぶ。 ・我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ・言葉には、想像や心情を豊かにするはたらきがあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞シート ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞シート ・ノート
	11	9	花のいぎない（観世寿夫）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統文化を論じた文章に触れ、抽象的な内容がどのように説明されているか理解する。 ・作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ。 ・粘り強く随想を読み、学習課題に沿って、その構成・展開や表現について説明しようとしている。 ・花が人の心にどのような影響をもたらしているかについて、積極的に考えを発表し合うことで、自然に対するものの見方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート
	12	3	死んだ男の残したものは（谷川俊太郎）	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの平和を願う反戦詩として書かれた背景を踏まえ、作品に託された思いを読み取る。 ・繰り返し音読し、積極的に詩の構成やリズムを理解する。 ・象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞シート ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート

3 学 期	1	11	こころ（夏目漱石） 文学のしるべ	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情をつかむ。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品の解釈を踏まえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・場面ごとの展開を粘り強く読み取り、登場人物の心情とその変化について理解する。 ・和歌の内容や主題を捉え、登場人物や構成を意識しながら物語を創造する。 ・文体や表現の技法に注意して、人物の心情や情景を描写する方法を学ぶ。 ・古典を題材として小説を書く翻案を通して、物語を創作する方法を学ぶ。 ・我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ・言葉には、想像や心情を豊かにするはたらきがあることを理解する。 ・他の生徒が創作した物語を、評価の観点に沿って適切に批評する。 ・他の生徒からの批評を前向きに捉え、自分が創作した物語の特長や課題を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート
	2	9	古典を基にして物語を作る		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考力・表現力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりシート ・ノート
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

新しい「自己」との出会い、恋愛や友情といった人間関係、アイデンティティ、人間存在、生や死への不安、文学とは、どこまでも人間に寄り添うものです。人は生きていく中で、膨大な体験をしてきます。見たり、聞いたりしたそのすべては体験です。しかし、人生で体験できることには限りがあります。文学を通して、様々な体験や場面、考え方、心情に触れ、自分の経験とすることで、人間や世界を考え、自らの生に意味を見出す手助けとしてください。また、いつでも「手元に読みかけの本を持っている」と言えるように、読書習慣をつけましょう。その時、知らない漢字や語句をすぐに調べる習慣をつけると、楽しめる本も増えていきます。

令和5年度 国語科

科目名	古典探究		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	2
学習の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
使用教材	<p>教科書：「高等学校古典探究 古文編」(第一学習社)、「高等学校古典探究 漢文編」(第一学習社)</p> <p>副教材：「新版二訂 ニューエイジ古文 必修2」(第一学習社)、「読んで見て覚える重要古文単語 315」(桐原書店)、「三訂版 読解をたいせつにする体系古典文法」(数研出版)、「体系古典文法学習ノート」(数研出版)、「新訂総合国語便覧」(第一学習社)、「新版日本文学史必携」(第一学習社)</p>				
評価	評価法	<p>予習の状況、授業中の態度、小テスト、提出物等を加味し、定期考査を中心に、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についての3つの観点から総合的に評価する。</p>			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	<p>生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。</p>	
		b	思考・判断・表現	<p>論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>	
		c	主体的に学習に取り組む態度	<p>言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。</p>	
<p>上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。</p>					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	4	『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」	<ul style="list-style-type: none"> ・著名な和歌の背景事情についての理解 ・展開や内容的確な把握 ・古文単語の習得 ・和歌の修辞 ・文語のきまり 	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
	5	4					
	6	4	『伊勢物語』 「初冠」	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語の理解 ・係り結びの法則の復習 ・古文単語の習得 	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
		4					
	7	4	『蜻蛉日記』 「うつろひたる菊」	<ul style="list-style-type: none"> ・心情描写の読解 ・日記文学の理解 ・掛詞、縁語の学習 	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
		4					
	4	『枕草子』 「木の花は」	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆の構成や展開、内容的確な理解 ・三つに大別される章段の特徴の把握 ・我が国の文化と外国の文化との関係についての理解 	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト	
	4	漢詩 「独坐敬亭山」 「九月九日憶山東兄弟」 「除夜寄弟妹」	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の表現や技法への理解 ・構成や展開、内容的確な把握 	定期考査	定期考査	ノート提出	

2 学 期	9	10	『源氏物語』 「光る君誕生」 「若紫」	・長編物語の人物造形や心理描写の理解 ・敬語表現の習得 ・『源氏物語』の文学史的知識の習得	定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート提 出 小テスト
	10	5	『更級日記』 「門出」	・少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れる ・日記文学の構成や展開、内容的確な把握	定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート提 出 小テスト
	11	10	『史記』 「鴻門之会」	・登場人物の人物像についての考察 ・史伝の構成や展開の的確な把握 ・漢文の語彙の習得	定期 考査	定期 考査	ノート提 出
	12	5	『大鏡』 「弓争ひ」	・歴史物語の特徴の理解 ・構成や展開、内容の的確な把握 ・敬語表現の習得	定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート提 出 小テスト
3 学 期	1	9	『平家物語』 「能登殿の最期」	・登場人物の行動や思想、歴史的背景の理解 ・軍記物語や和漢混交文の理解 ・音便知識の習得	定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート提 出 小テスト
	2	5	『呂氏春秋』 「知音」	・漢文が日本語に与えた影響の理解 ・故事成語の意味の調査	定期 考査	定期 考査	ノート提 出
	3	6	『大和物語』 「苔の衣」	・古典の世界の多様性の理解 ・作者の意図に基づいた内容の解釈	定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート提 出 小テスト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・必ず予習をして、授業に臨んでください。予習を前提に授業を進めます。ガイドなどを写しても、作業にしかありません。必ず自分で取り組むこと。
- ・一年生で学んだ文法分野の理解を深めて下さい。用言・助動詞・助詞・副詞などの理解が古典学習の基礎です。文法分野は常に復習をして定着をめざして下さい。
- ・文学史分野は、丸暗記ではなく本文の背景として理解を深めたり、様々な作品においても関連してくる事項ですので、確実に理解して下さい。文学史の知識が、本文理解を助ける鍵となります。
- ・「ニューエイジ古文」など演習問題は、自力で取り組んだ上で、解答を熟読して下さい。重要古語については「古文単語」で確認するなど、それぞれ関連させて学習しましょう。

令和5年度 地理歴史科

科目名	日本史探究		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	3
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書：詳説日本史（山川出版社） 副教材：新詳日本史（浜島書店）、進研ウィンステップ日本史探究（ラーズ）				
評価	評価法	課題考査・定期考査、授業課題・提出物、授業態度等を総合して評価します。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	26	第1章	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権 律令国家の形成	考査	考査	ワーク シート
	5		第2章				
	6		第3章				
	7		第4章 第5章 第6章 第7章	貴族政治の展開 院政と武士の躍進 武家政権の成立 武家社会の成長	考査	考査	ワーク シート レポート

2 学期	9	35	第7章	武家社会の成長 近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開	考查	考查	ワー ク ト
	10		第8章 第9章				
	11		第10章	幕藩体制の動揺 近世から近代へ 近代国家の成立 近代国家の展開	考查	考查	ワー ク ト
	12		第11章 第12章 第13章				
3 学期	1	23	第13章	近代国家の展開 近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦 占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本	考查	レポ ート	レポ ート
	2		第14章				
	3		第15章 第16章 第17章 第18章				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

【授業】様々な歴史上の出来事に対して、「なぜ？」と疑問を持つことが大切です。また、歴史上の出来事に対する考え方は人それぞれです。授業中は、教員と、そしてクラスメイトと積極的に対話をおこなうようにしていきましょう。

【家庭学習】まずは、時代のイメージを大きくつかんだうえで、様々な出来事の流れ・つながりを押さえましょう。次に、重要ポイントを図や表、地図にまとめながらインプットしていきましょう。最後に、問題を解いて知識の定着度を確認しましょう。

令和5年度 地理歴史科

科目名	世界史探究		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	3
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書：新詳世界史探究（帝国書院） 副教材：進研ウィンステップ世界史探究（ランズ）・グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査・ワークノート・レポート・発表などから総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法				
					a	b	c		
1学期	4	26	1部	世界史へのまなざし	考査	考査	ワーク ノート		
	5		2部序章	古代文明の歴史的特質					
			2部1章	中華文明の形成					
			1節	秦漢帝国と東アジア					
			2節	中央ユーラシアと遊牧国家					
			3節	遊牧帝国の興亡と移動					
	6		4節	ユーラシアの変動と東アジア					
			2部2章	南アジアの文明と国家形成					
			1節	東南アジアの社会と国家形成					
			2節	発表					
			発表	発表					
	7		2部3章	考査				考査	ワーク ノート
			1節	オリエント文明の興亡					
			2節	地中海周辺の世界形成					
3節		地中海周辺と西アジアの帝国							
4節		ヨーロッパへ広がるキリスト教							
5節		イスラームの誕生							
3部1章		レポート	レポート						
1節		イスラーム世界の拡大							
2節	ヨーロッパ封建社会の展開								
3節	東アジア諸地域の成長と自立								
4節	ユーラシア大帝国の出現								

2 学期	9	35	3部2章	明の国際秩序と東・東南アジア 世界帝国清とアジア諸国の成熟 スペインとポルトガルの進出 イスラーム世界の成熟											
	10		1節 2節 3節 4節												
	11		3部3章					ルネサンスと宗教改革 主権国家の形成と「17世紀の危機」 東欧諸国の台頭とヨーロッパ文化の成熟 イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易							
			1節 2節 3節 4節												
			4部1章									世界で最初の工業化 アメリカの独立 フランス革命と国民国家の誕生 ラテンアメリカへの革命の波及			
			1節 2節 3節 4節												
	12		4部2章					イギリスの覇権と自由主義 ヨーロッパに広がる国民国家 アメリカ合衆国の拡大と国民統合							
	11		1節 2節 3節 4節												
			4部3章					イスラーム王朝の解体と変容 南・東南アジアの変容 東アジア諸国の模索と変容							
			1節 2節 3節												
4部4章	帝国主義と世界分割競争 アジア知識人による体制改革の試み														
1節 2節															
3 学期	1	23	5部1章	第一次世界大戦と社会主義革命 第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開 大衆社会の到来とファシズムの出現 第二次世界大戦とその惨禍 戦後の国際秩序と冷戦											
	2		1節 2節												
			5部2章					冷戦下の経済秩序と格差 グローバル経済の光と影							
	1節 2節														
	3		5部3章					情報と科学技術によって結びつく世界 地球世界の課題の探究							
			5部4章												
			1節 2節												

担当者からのメッセージ（学習方法など）

【授業】様々な歴史上の出来事に対して、「なぜ？」と疑問を持つことが大切です。また、歴史上の出来事に対する考え方は人それぞれです。授業中は、教員と、そしてクラスメイトと積極的に対話をおこなうようにしていきましょう。

【家庭学習】まずは、時代のイメージを大きくつかんだうえで、様々な出来事の流れ・つながりを押さえましょう。次に、重要ポイントを図や表、地図にまとめながらインプットしていきましょう。最後に、問題を解いて知識の定着度を確認しましょう。

令和5年度 公民科

科目名	公共		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	現実社会の諸課題について理解・考察できるように、さまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。それをもとに、他者といっしょに社会をつくっていく主体としての自立した市民、民主主義社会の形成者となる市民を育てることを目標とする。				
使用教材	教科書：新版公共（数研出版） 副教材：教科書準拠版 新版公共整理ノート（数研出版）				
評価	評価法	定期考査・ワークノート・レポート・発表・討論などから総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	倫理・政治・経済などに関わる基本的な用語や概念を理解している。諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。	
		b	思考・判断・表現	理解した概念やまとめた情報を使って、多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断することができる。自分の考えを効果的に説明したり、議論して合意を形成することができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	民主主義社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	18	・ 公共的な空間をつくる私たち	・ 青年期と自己形成 ・ 人間としての自覚 ・ 日本人としての自覚 人間にしかできないことって何だろう？	考査	レポート	ワークノート
	5					考査	討論
	6		・ 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	・ 西洋近現代の思想 ・ 現代の諸課題と倫理 限られた医療資源をどうするか？	考査	レポート	ワークノート
	7					考査	討論

2 学期	9	24	・ 公共的な空間における基本原理	・ 民主社会の基本原理 ・ 日本社会の基本原理 民主政治における決め方とは？	考查	レポート 考查	ワーク ノート 討論
	10		・ 現代の民主政治と政治参加の意義	・ 日本の政治機構 ・ 政治参加と民主政治の課題 高校生はどこまで政治に関われるか？	考查	レポート 考查	ワーク ノート 討論
	11		・ 現代の経済社会と経済活動のあり方	・ 経済の仕組みと市場機構 ・ 財政と金融 ・ 日本経済の発展と変化 ・ 豊かな生活と福祉の実現 持続可能な社会保障のためには？	考查	レポート 考查	ワーク ノート 討論
	12		・ 国際社会の動向と日本の役割	・ 国際政治の動向	考查	レポート 考查	
3 学期	1	16		・ 国際政治の課題と日本の役割 ・ 国際経済の動向と国際協力 日本ならではの国際貢献とは？	考查	レポート 考查	ワーク ノート 討論
	2						
	3			・ 持続可能な社会づくりの主体となる私たち			・ 課題探究の観点 ・ 課題探究の手引き 1年のまとめとしての探究学習

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「個」が集まって「公共」的な空間ができます。『公共』の授業では、個別の学習で教科書にある膨大な知識や概念を暗記するのではなく、グループで調べたり議論したりすることで、今の世界や日本の社会に目を開き、他者の立場を理解し共感できる力をつけましょう。最も身近な公共空間は教室です。『公共』の授業を通して、教室の仲間とともに学びが深まり、世界が広がることを期待します。

令和5年度 数学科

科目名	数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	4
学習の目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：新編 数学Ⅱ（数研出版） 副教材：基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B（数研出版）※全員 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B（数研出版）※文系Sおよび理系のみ				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	「数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力」，「座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力」，「関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力」，「関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力」を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	「数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度」，「粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度」，「問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度」や創造性の基礎を身に付けている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	15	第1章 数と証明	第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	確認 テスト		振り 返り シート
	5月			第2節 等式・不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。			

	6月	13	第2章 複素数と方程式	<p>第1節 複素数と2次方程式の解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 <p>方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。</p> <p>第2節 高次方程式</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 <p>剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p>	確認 テスト		振り 返り シート
	7月				期 末 考 査	期 末 考 査	ワー ク
		9	第3章 図形と方程式	<p>第1節 点と直線</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 <p>座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	確認 テスト		振り 返り シート
	8月			1学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	夏休 み 課題
2 学 期	9月	12	第3章 図形と方程式	<p>第2節 円</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 <p>座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>第3節 軌跡と領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 <p>図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上的領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	確 認 テ ス ト		振り 返り シート

3 学 期	10 月	16	第4章 三角関数	<p>第1節 三角関数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 <p>角の概念を一般角まで拡張して，三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。</p> <p>第2節 加法定理</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 <p>加法定理を理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	中 間 考 査	中 間 考 査	ワーク
	11 月				確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	12 月				期 末 考 査	期 末 考 査	ワーク
			5	第5章 指数関数と 対数関数	<p>第1節 指数関数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指数の拡張 2. 指数関数 <p>指数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	確 認 テ ス ト	レ ポ ー ト
	1 月			2学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	冬 休 み 課 題
		7		<p>第2節 対数関数</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 <p>対数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト

	2月	22	第5章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	確認 テスト			振り 返し シート	
	3月			微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。				第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学Ⅱでは、微分法や積分法をはじめ、他のさまざまな分野で応用される数学における非常に重要な概念を学習します。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も振り返りシートなどを用いて評価します。授業で学んだその日のうちにワーク（完成ノート）で復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和5年度 数学科

科目名	数学B		学年	類型・コース	単位数
			2	文系S・理系	2
学習の目標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：新編 数学B（数研出版） 副教材：基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B（数研出版） チャート式 新課程 解法と演習 数学Ⅱ+B（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	「離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力」，「確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力」，「日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力」を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	「数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度」，「粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度」，「問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度」や創造性の基礎を身に付けている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	20	第1章 数列	第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	確認テスト		振り返りシート
	5月	数列やその一般項の表し方について理解する。また，基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し，それらの和を求められるようにする。また，これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。					
	6月	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和		中間考査	中間考査	ワーク	
				和の記号Σの表し方や性質を理解し，活用できるようにする。また，いろいろな数列について，その一般項や和を求めたり，和から一般項を求めたりできるようにする。			

	7月		<p>第2節 いろいろな数列</p> <p>9. 漸化式</p> <p>10. 数学的帰納法</p> <p>数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。</p>	確認テスト		振り返しシート
	8月		1学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課題調査	課題調査	夏休み課題
2学期	9月	25	<p>第2章 統計的な推測</p> <p>第1節 確率分布</p> <p>1. 確率変数と確率分布</p> <p>2. 確率変数の期待値と分散</p> <p>3. 確率変数の和と積</p> <p>4. 二項分布</p> <p>5. 正規分布</p> <p>確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。</p>	確認テスト		振り返しシート
	10月			中間調査	中間調査	ワーク
	11月		<p>第2節 統計的な推測</p> <p>6. 母集団と標本</p> <p>7. 標本平均の分布</p> <p>8. 推定</p> <p>9. 仮説検定</p> <p>母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p>	確認テスト		振り返しシート
	12月			期末調査	期末調査	ワーク

3 学 期	1 月		2学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	冬 休 み 課 題
	2 月	15	第3章 数学と社会生活	1. 数学を活用した問題解決 2. 社会の中にある数学 3. 変化をとらえる～移動平均～ 4. 変化をとらえる～回帰分析～ 会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解するとともに、日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知り、積極的に数学を活用する姿勢を培う。	確 認 テ ス ト	振 り 返 り シ ー ト
	3 月			学 年 末 考 査	学 年 末 考 査	ワ ー ク

担当者からのメッセージ (学習方法など)

数学Bでは、「数列」、「統計的な推測」、そして「数学と社会生活」について学習します。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も振り返りシートなどを用いて評価します。授業で学んだその日のうちにワークで復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和5年度 理科

科目名	物理基礎		学年	類型・コース	単位数
			2	理系（生物選択者）	2
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
使用教材	教科書：高等学校 改訂 物理基礎（第一学習社） 副教材：改訂 ネオパルノート物理基礎（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	第I章 力と運動	① 速度	定期考査	定期考査	小テスト
	5		第1節 物体の運動	② 加速度			
		4	第2節 力のはたらきと つりあい	③ 落下運動			
				① さまざまな力	定期考査	定期考査	小テスト
6	8	第3節 運動の法則	② 力の合成・分解とつりあい	小テスト			
			7		① 運動の3法則	定期考査	定期考査
			② 運動方程式の利用	小テスト	提出		
			③ 抵抗力を受ける運動				

2 学 期	9	7	第II章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エ ネルギー	① 仕事と仕事率 ② 運動エネルギー ③ 位置エネルギー ④ 力学的エネルギー	定期 考查 小テ スト	定期 考查 実験	小テ スト 提出
	10	5	第2節 熱とエネルギー	① 熱と温度 ② エネルギーの変換と保存 ③ 気体の圧力と熱運動	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	11	5	第III章 波動 第1節 波の性質	① 波の表し方と波の要素 ② 波の重ね合わせ ③ 波の干渉・反射・屈折・回折	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	12	6	第2節 音波	① 音波の性質 ② 物体の振動 ③ ドップラー効果	定期 考查 小テ スト	定期 考查 観察	小テ スト 提出
3 学 期	1	6	第IV章 電気 第1節 静電気と電流	① 静電気 ② 電流と抵抗 ③ 電気エネルギー	定期 考查 小テ スト	定期 考查 実験	小テ スト 提出
	2	6	第2節 電流と磁場	① 磁場 ② モーターと発電機 ③ 交流と電磁波	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	3	3	第3節 エネルギーとそ の利用	① 太陽エネルギーと化石燃料 ② 原子力エネルギー	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考查勉強は授業プリントや問題集を利用して行いましょう。物理は学問的なルールを受け入れて、いかに正しく現象に対して適用できるかが問われます。論理的思考力が非常に大切となるので、「この式は何を意味しているか」「なぜそうなるか」といった点を重視して学習に取り組みましょう。

科目名	物理基礎		学年	類型・コース	単位数
			2	理系（物理選択者）	2
学習の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、観察や実験を通して物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
使用教材	教科書：改訂版 総合物理1・2（数研出版） 副教材：セミナー物理基礎+物理（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	8	第1編 運動とエネルギー	① 速度	定期考査	定期考査	小テスト
	第1章 運動の表し方		② 加速度	小テスト			
	5	10	第2章 運動の法則	① 力とそのはたらき	定期考査	定期考査	小テスト
			② 力のつりあい	小テスト			
				③ 運動の法則			
				④ 摩擦を受ける運動			
				⑤ 液体や気体から受ける力			

6	7	第3章 仕事と力学的エネルギー	① 仕事 ② 運動エネルギー ③ 位置エネルギー ④ 力学的エネルギーの保存	定期 考查 小テ スト	定期 考查 実験	小テ スト 提出
	5	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	① 熱と熱量 ② 熱と物質の状態 ③ 熱と仕事 ④ 不可逆変化と熱機関	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	5	第3編 波 第1章 波の性質	① 波と媒質の運動 ② 波の伝わり方	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	6	第2章 音	① 音の性質 ② 発音体の振動と共振・共鳴	定期 考查 小テ スト	定期 考查 観察	小テ スト 提出
7	6	第4編 電気 第1章 物質と電気	① 電気の性質 ② 電流と電気抵抗 ③ 電気とエネルギー	定期 考查 小テ スト	定期 考查 実験	小テ スト 提出
	4	第2章 磁場と交流	① 電流と磁場 ② 交流と電磁波	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	3	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用	① エネルギーの移り変わり ② エネルギー資源と発電	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	2	第2章 物理学が拓く世界	① 摩擦をコントロールする ② エネルギーを有効利用する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">物理基礎の授業は1学期末で終了します</div>	小テ スト		提出

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考查勉強は授業プリントや問題集を利用して行いましょう。物理は学問的なルールを受け入れて、いかに正しく現象に対して適用できるかが問われます。論理的思考力が非常に大切となるので、「この式は何を意味しているか」「なぜそうなるか」といった点を重視して学習に取り組みましょう。

令和5年度 理科

科目名	物理		学年	類型・コース	単位数
			2	理系	3
学習の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、観察や実験を通して物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
使用教材	教科書：改訂版 総合物理1・2（数研出版） 副教材：セミナー物理基礎+物理（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
2学期	9	10	第I章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と剛体のつりあい	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">物理の授業は2学期から開始します</div> 1 平面運動 2 放物運動 3 剛体にはたらく力	定期考査 小テスト	定期考査 実験	小テスト 課題
	10	10	第2節 運動量の保存	1 運動量と力積 2 運動量保存の法則 3 反発係数	定期考査 小テスト	定期考査	小テスト 課題

2 学期	11	15	第3節 円運動と万有引力	1 円運動	定期 考查	定期 考查	小テ スト
	12			2 慣性力と遠心力			
				3 単振動			
				4 万有引力による運動			
3 学期	1	23	第4節 気体の性質と分子の運動	1 気体の法則	定期 考查	定期 考查	小テ スト
	2			2 気体の分子運動			
				3 気体の内部エネルギーと仕事			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考查勉強は授業プリントや問題集を利用して行いましょう。物理は学問的なルールを受け入れて、いかに正しく現象に対して適用できるかが問われます。論理的思考力が非常に大切となるので、「この式は何を意味しているか」「なぜそうなるか」といった点を重視して学習に取り組みましょう。

令和5年度 理科

科目名	化学		学年	類型・コース	単位数
			2	理系	2
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
使用教材	教科書：啓林館 高等学校 化学 副教材：実教出版 「サイエンスビュー化学総合資料」 東京書籍 新課程 ニューアチーブ 化学 第一学習社 セミナー 化学基礎+化学				
評価	評価法	定期考査、小テスト（適宜）、パフォーマンス課題、ノート、振り返りシート等を用いて総合的に評価をする。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常生活や社会との関わりを図りながら物質とその変化についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4		第1部 物質の状態 第1章 固体の構造 第2節 結晶の構造	固体の構造について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	5		第2章 物質の状態変化 第2節 気液平衡と蒸気圧	物質の状態とその変化を、構成粒子の存在状態とエネルギーの関係から学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
			第3章 気体の性質 第1節 気体の体積の変化 第2節 気体の状態方程式	気体が示す性質について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	6		第4章 溶液の性質 第1節 溶解と溶解度 第2節 希薄溶液の性質	溶液やコロイドが示す性質について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	7						

2 学 期	9	第3節 コロイド	化学反応におけるエネルギーの出入り と熱や光との関係を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題				
	10	第2部 物質の変化と平衡 第1章 化学反応と熱・光エネルギー 第1節 反応熱とエンタルピー 第2章 ヘスの法則 第3節 化学反応と光								
	11	第2章 化学反応と電気エネルギー 第1節 電池 第2節 電気分解					化学エネルギーを電気エネルギーとして取り出したり、外部から加えた電気エネルギーによって化学反応が起こったりする原理について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	12	第3章 反応速度 第1節 反応の速さ					化学反応の速さの表し方や反応の速さを決める条件、化学反応が起こるときの仕組みなどについて学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
3 学 期	1	第2節 化学反応と触媒	化学平衡の状態とは何かを学んだ後、平衡定数を用いると平衡時の各物質の物質質量や分圧が求められることについて学ぶ。また、条件の変化に伴う平衡移動についても学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題				
	2	第4章 化学平衡 第1節 化学平衡とその移動								
	3									

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「化学」は目には見えない小さな粒子達がどのように振る舞うのかを追いかけ、私たちの便利で豊かな生活を支えています。そんな「化学」を学習する上において以下のことを意識しましょう。

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
- 4 化学式など必要な知識や基本事項は自分なりにゴロを作ったりと工夫しながら確実に押さえること。
- 5 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に対し、「なぜ?」「どうして?」の視点を持ち、自分の言葉で説明しようと努力すること。
- 6 分からないところが出てきたら、ほっとかずに、先生に聞きに行くなどして、できるだけ早く理解し、解決しましょう。

令和5年度 理科

科目名	生物		学年	類型・コース	単位数
			2	理系	3
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 				
使用教材	教科書：高等学校 生物（第一学習社） 副教材：フォトサイエンス生物図録（数研出版）、セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、振り返りシート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	13	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と細胞の進化 2. 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 3. 進化のしくみ	①生命の誕生 ②細胞の進化 ①遺伝子とその変化 ②遺伝子の組み合わせの変化 ①進化のしくみ ②種分化	定期考査	定期考査	小テスト
	5						
	6	13	第2章 生物の系統と進化 1. 生物の系統 2. 人類の系統と進化	①生物の系統と分類 ②細菌（バクテリア）とアーキア（古細菌） ③真核生物（ユーカリア） ①人類の系統と進化	小テスト	定期考査	振り返りシート
	7						

2 学 期	9	第3章 細胞と分子	①細胞を構成する物質	定期 考 査	定期 考 査	小テ ス ト
	9	1. 生体物質と細胞	①タンパク質の構造と性質			
	10	2. タンパク質の構造と性質	①酵素			
		3. 生命現象とタンパク質	②膜輸送タンパク質			
			③受容体			
	9	第4章 代謝	①同化と異化	定期 考 査	定期 考 査	振 り 返 り シ ー ト
		1. 代謝とエネルギー	①光合成と葉緑体			
		2. 炭酸同化	②光合成の過程			
		3. 異化	①呼吸とミトコンドリア			
			②発酵			
	11	第5章 遺伝情報とその発現	①DNAの構造と複製	定期 考 査	定期 考 査	小テ ス ト
	9	1. DNAの複製	①転写			
		2. 遺伝子の発現	②翻訳			
	12	第6章 遺伝子の発現調節と発生	①遺伝子の発現調節	定期 考 査	定期 考 査	小テ ス ト
	8	1. 遺伝子の発現調節				
3 学 期	1	2. 発生と遺伝子の発現	①動物の配偶子形成と受精	小テ ス ト	定期 考 査	振 り 返 り シ ー ト
			②ショウジョウバエの発生における遺伝子の発現調節			
				③カエルの発生における遺伝子の発現調節		
			④発生過程にみられる多様性と共通性			
	2	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用	①遺伝子の単離と増幅	定期 考 査	定期 考 査	小テ ス ト
	10	1. 遺伝子を扱う技術	②遺伝子の構造や発現を解析する方法			
			③遺伝子の機能を解析する方法			
	3	2. 遺伝子を扱う技術の応用	①人間生活への応用			
			②遺伝子を扱う際の課題			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考査勉強は問題集や資料集を利用して行いましょう。基本的な知識を覚えるだけでは対応できないので、「なぜそうなるのか?」「仕組みはどうなっているのか?」ということを理解しましょう。

令和5年度 理科

科目名	地学基礎		学年	類型・コース	単位数
			2年	文系	2
学習の目標	1. 地球や宇宙の歴史的あるいは空間的な広がりの中における自己の位置を確認させ、自己の重要性を認識させる。 2. 物事や事象に対する的確で正確な判断力を養うと同時に、実習を通して科学的な見方・考え方を育成する。地学的な考え方の習得を目指す。 3. 地球や地球を取り巻く環境に関わる知識を身につけるとともに、日常生活や社会との関連を図りながら、環境問題や自然災害・防災に対する意識を高める。				
使用教材	教科書：「地学基礎 EARTH SCIENCE」(実教出版) 副教材：「地学基礎の基本マスター 新訂版」(啓林館)				
評価	評価法	考査の成績、パフォーマンス評価(実習への取り組み、レポートの内容等、提出物)、出席状況、授業への取り組み方をもとに、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、総合的に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	地球や地球を取り巻く環境についての知識を身につけ科学的に探究するための基本的な技能を習得している。	
		b	思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境について身につけた知識をもとに、仮設の設定、データの分析・解釈、推論などの方法を習得し、解釈、推論や自分の考えを適切に表現することができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4		1章 地球の構成と運動 地球の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の形の特徴と大きさの測定方法 ・地表のようす ・地球の内部の層構造とその状態 ・プレートの分布とプレートテクトニクス ・大地形の形成と地質構造 ・変成作用と変成岩 ・プレートの動きと地震活動 ・プレートの動きと火山活動 ・火成岩 	定期 考査	定期 考査	実習 および レポート 問題集
	5		プレートの運動				
	6		地震と火山				
	7						

2 学 期	9	2章 大気と海洋 大気の構造と運動	<ul style="list-style-type: none"> ・高度における気圧や気温の変化 ・大気圏の層構造 ・大気中の水とその状態 ・大気の状態 	定期 考査	定期 考査	実習 およ びレ ポ ー ト
	10	大気の大循環	<ul style="list-style-type: none"> ・地球のエネルギー収支 ・大気の大循環 ・温帯低気圧と熱帯低気圧 		実習 およ びレ ポ ー ト	問題 集
	11	海洋の構造と海水の 運動 日本の四季の気象と 気候	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋の層構造 ・海水の運動と循環 ・気象と気候 ・日本の四季 			
	12	3章 宇宙，太陽系と地球 の誕生 宇宙の誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙の姿 ・天体の距離と光の速さ ・ビックバンと天体の誕生 	定期 考査	定期 考査	実習 およ びレ ポ ー ト
		太陽の誕生 惑星の誕生と地球の 成長	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の太陽の姿と太陽の誕生 ・太陽系の誕生と太陽系の姿 ・太陽系の誕生と惑星の分類 ・地球の誕生と成長 		実習 およ びレ ポ ー ト	問題 集
3 学 期	1	4章 古生物の変遷と地球 環境の変化 地層のでき方	<ul style="list-style-type: none"> ・地層のでき方と堆積岩 ・地層の調べ方 	定期 考査	定期 考査	実習 およ びレ ポ ー ト
	2	化石と地質時代の区 分 古生物の変遷と地球 環境	<ul style="list-style-type: none"> ・化石 ・地層の対比と地質時代の区分 ・初期生命と大気の変化 (先カンブリア時代) ・多様な生物の出現と脊椎動物の発展 (古生代から中生代) ・哺乳類の繁栄と人類の出現 (新生代) 		実習 およ びレ ポ ー ト	問題 集
	3	5章 地球の環境 日本の自然環境 地球環境の科学	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島がつくる自然の特徴 ・さまざまな自然災害と防災・減殺 ・人間活動がもたらす環境問題と自然変動 ・気候変動と地球温暖化 ・地球環境と物質循環 ・地球環境に与える人間生活の影響 	定期 考査	定期 考査	実習 およ びレ ポ ー ト
				実習 およ びレ ポ ー ト	問題 集	問題 集

担当者からのメッセージ（学習方法など）

それぞれの現象を理解し、他の事象との関連を考えながら学習すると理解が深まります。（例えば、プレートと地震や火山の噴火の関係、マグマの性質と火成岩、変成作用と変成岩など）また、ある現象が起きる原因等を考える習慣を身につけましょう。

身近に起きる現象（気象現象（台風・竜巻等）、地震、火山活動、天体现象など）に関心を持ち、新聞やTVのニュースなどを見るようにし、「なぜ」という疑問を持つようにすると理解が深まります。

また、テストに対しては、地学用語や岩石名、化石の名前などを授業中に覚える努力をし、1週間前までには必ず復習し、その後、問題集などで理解度を確認することが大切です。一部の分野で計算も必要となりますが、簡単な比の計算程度なので、何回か練習すれば必ずできるようになります。

共通テストに対しては、基礎的なことが出題されるので、基本的な用語の意味や現象について理解し、問題文の読解とグラフやデータの読み取り方になれておけば十分対応できると思います。

令和5年度 保健体育科

科目名	体育		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
使用教材	教材 教科書現代保健体育編 その他 振り返りプリント、各種目の用具				
評価	評価法	スキルテスト、観察、振り返りシート、小テスト、運動の計画、発表			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって、運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	3	新体力テスト	・自らの運動能力を数値で確認し、その結果を分析し、日常の活動に取り入れる力をつける。また、実施の方法や測定の方法について、知識を身につける。 ・集団行動の主な行動様式を身につけ、集団の約束や決まりを守って行動できる。集団で活動することの意味を理解し、集団での役割が果たせるよう努力する 【選択種目】 ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	スキルテスト	観察	振り返りシート
		2	集団行動				
	5	1	【選択Ⅰ】卓球				
	6	6	バドミントン テニス				

2 学 期	9	6	<p>体育理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにおける技能と体力 ・スポーツにおける技術と戦術 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム ・体カトレーニング ・運動やスポーツでの安全の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにおける技能と体力の関係性について理解し、技能や体力を高めようとする際に注意すべきポイントなどを考える。 ・スポーツ技能の型の違いやそれぞれの練習の行い方を理解し、自分に当てはめて考える。用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を理解する。 スポーツにおける技能の上達の過程を理解するとともに、練習によって技能の上達によりみられる過程の特徴について理解できる。 ・体の働きの開始と継続の特徴についてや調整力について理解する。 ・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を理解する。筋力・持久力・調整力・柔軟性を高める具体的な方法を理解する。 ・スポーツ外傷とスポーツ障害についてそれぞれ理解を深めるとともに、スポーツ活動中に起きる重大な事故の発生原因を理解し予防方法を考える。 	小テスト	観察	振返 シ ト	り り ー	
			8	<p>体づくり運動</p>	<p>手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。</p> <p>実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。</p>	運動の 計 画、 発 表	観察	振返 シ ト	り り ー
		10							
		11	1	<p>【選択Ⅱ】</p> <p>ソフトボール サッカー バレーボール</p>	<p>【選択種目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。 	スキル テ ス ト	観察	振返 シ ト	り り ー
	12	8							
3 学 期	1	1	<p>【選択Ⅲ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・ダンス 	<p>【選択種目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるようグループにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習や発表会に取り組もうとするとともに、自分や他者が行うことに対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習や発表会をしようとする。 	スキル テ ス ト	観察	振返 シ ト	り り ー	
	2	7							
	3								

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- 自らの体に関心を持って、毎日健康に過ごすためにはどのような運動習慣を身につけるのがよいのかを学んでいきましょう。
- 生活習慣を整えて毎日を過ごす。（食事、睡眠など）
- よい意志決定行動選択ができるようになりましょう。
- 授業などで学んだことを実践しましょう。

令和5年度 保健体育科

科目名	保 健		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	1
学習の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくために資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書：現代保健体育（大修館書店） 副教材：現代保健ノート（大修館書店）				
評 価	評価法	各学期の期末考査（知識・技能部分 a 思考・判断・表現部分 b）、授業のプリントや板書ノート c、レポート bc、現代保健ノート ab、振り返りシート c、実習の観察 c等を参考に総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	保健に関する知識を理解できる。また、その知識を使うことができる。	
		b	思考・判断・表現	健康に関する現代的な課題についての理解や自分の意見を持ち、記述や討論ができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	毎時間の授業や実習への取り組みや学習の振り返り等ができる。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法															
					a	b	c													
1 学 期	4	1 2 3 4 5 6 7	【3単元 生涯を通じる健康】 1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康	・各ライフステージと健康の関連について理解するとともに、活用できる社会からの支援について具体的に学ぶ。 ・思春期における体の変化を生物学的性別に分けて説明できるようになる。また、思春期における心の発達にかかわって起こる課題について理解し、自分の言動について振り返る。 ・性意識の男女差について相互に理解をし、適切な人間関係を築くためのヒントとする。性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことから、情報の取捨選択をし考え方や行動の基礎を培う。 ・妊娠・出産の過程における健康課題について理解する。また活用できる母子健康サービスについて具体的理解を深める。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解するとともに、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について知り、自分の行動について考えを深める。	上 記 評 価 方 法 欄 に 記 載	上 記 評 価 方 法 欄 に 記 載	上 記 評 価 方 法 欄 に 記 載													
								5	3 4 5 6 7	3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶	・人生における結婚という選択しについて考える機会にするとともに、心身の発達と結婚生活の関係について理解する。結婚生活を健康に送るために必要な考え方や行動を考える機会とする。 ・加齢にともなう心身の変化について具体的に理解をする。高齢社会に必要な社会的な取り組みについて考える。 ・働くことの意義と健康のかかわりについて理解する。働き方や働く人の健康問題に変化について考えを深め、自分自身が健康的に働くための資質を育てる。									
												6	8 9 10 11 12 13	6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康						
															7	8 9 10 11 12 13				
																	8	8. 働くことと健康		
																			9	8. 働くことと健康

2 学 期	9	14 15 16	9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害の種類とその原因について具体的に理解する。労働災害を防止するために必要なことを考える機会にする。 ・職場がおこなう健康に関する取り組みについて具体的に理解するとともに、ライフワークバランスについて考え、積極的に余暇をとることの意義について考えを深める。 ・大気汚染のげんいんと健康への影響について具体的に理解を深める。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康への影響について理解する。大気、水、土壌などの地球環境の複合的な環境汚染の発生の仕組みについて理解を深めるとともに、地球規模の環境課題について考えをまとめ、プレゼンテーションを行う。 ・環境汚染による健康への影響以外を防ぐ方法について理解する。産業廃棄物の処理について理解を深める。 ・ごみの処理の現状や課題について理解を深める。上下水道のしくみと健康にかかわる課題を考える。 ・食品の安全生と健康とのかかわりや、食品の安全性に関する昨今の課題について理解をし、その防止方法について考える。 ・食品の安全生を確保するための行政や製造者の役割や責任について理解する。また、食品の安全性を確保するために自分たちができることを考える。 				
		1 0	17 18 19 20 21	【4単元 健康を支える環境づくり】 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁, 土壌汚染と健康 (環境問題についてのレポート作成)				
		1 1	22 23	3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備				
		1 2	24 25	5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動				
	3 学 期	1	26 27 28	7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の役割や保健行政サービスの活用について具体的に理解する。 ・日本における医療保険のしくみについて理解し、昨今の課題についても考える機会とする。また、さまざまな医療機関の役割について理解する。 ・医薬品の正しい使用方法について理解を深めるとともに、医薬品の安全性を守るしくみや昨今の課題について考えを深める。 ・国際機関・民間機関などの保健活動について具体的に理解する。行政機関による社会的対策について理解をする。 ・健康の保持増進のための環境づくりについて理解するとともに、環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを考える。 			
			2	29 30 31	9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加			
			3	32 33 34 35				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

保健の授業は、あなたたちの現在から長い将来につながる人生を健康に生きるためにとても重要な科目です。現代の日本が抱える健康課題についての知識を増やし、考えを深めることができるように期待しています。ここから学んだことを、自分の人生で実践し、健康な人生を歩む基礎にしてください。

令和5年度 芸術科

科目名	音楽Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	2
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書：MOUSA2（教育芸術社） 副教材：学習プリント（自作のもの）				
評価	評価法	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評点（1～5の5段階）にまとめます。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関り及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	
		b	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	4	○曲にふさわしい発声で歌おう (Alleluja、糸他)	・発声練習に適した曲や親しみやすい曲、歌いやすい曲を通して、発声の技術を身に付け、表現を工夫して個性豊かに歌う。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	5	5	○ポップスの特徴を理解して歌おう (SUN、歩いて帰ろう、ハナミズキ他)	・ポップスのリズムにのって歌ったり、曲に込められた思いを味わったりしながら、曲想と歌詞の関りなどを理解し、個性豊かに歌う。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	6	6	○表現を工夫してリコーダーを演奏しよう (夏は来たりぬ、冬、ソナチネ他)	・リコーダーの独奏やアンサンブルを通して、曲にふさわしい奏法を身に付ける。 ・音色や表現を工夫し、試行錯誤しながら器楽表現を工夫する。	実技テスト 学習プリント	実技テスト 学習プリント	学習プリント 観察
	7	5	○日本の伝統音楽を味わおう	・長唄「越後獅子」の歌唱を通じて言葉や唄い方の関わりを理解し、工夫して唄う。 ・文楽や薩摩琵琶を鑑賞したり、調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、音楽表現の共通性や固有性について考える。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察

2 学 期	9	6	○タブレットを使 って作曲しよう	・タブレットの創作アプリ「Garage Band」を用い て、音を重ねたりしたときの響きや構成上の特徴 について、表したいイメージと関わらせて理解を 深め、創作表現を創意工夫する。	学習プ リント 発表	学習プ リント 発表	学習プ リント 観察
	10	6	○表現を工夫して ギターで弾き語り をしよう	・ギターの音色や表現の特徴を味わうとともに、奏 法を身に付け、音色や表現を工夫して個性豊かに 演奏する。	学習プ リント 実技テ スト	学習プ リント 実技テ スト	学習プ リント 観察
		6	○日本や諸外国の 歌曲に親しみ、表 現を工夫して独唱 しよう (からたちの花、 Vaga luna che inargenti など)	・さまざまな言語による歌曲に親しみ、それぞれの 特徴を理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、 身体の使い方などの技能を身に付け、表現を工夫 しながら独唱する。	学習プ リント 聴取	学習プ リント 聴取	学習プ リント 観察
	11	6	○和楽器に親し み、表現に工夫し て演奏しよう	・篠笛に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうと ともに、奏法を身に付け、音色や表現を工夫して 演奏する。	学習プ リント 聴取	学習プ リント 聴取	学習プ リント 観察
	12	5	○映画音楽を鑑賞 しよう	・音楽と映像との結びつきや、音楽によって映画の 場面や登場人物の心情がどのように表現されて いるかについて考えながら鑑賞し、映画音楽の魅 力を味わう。	学習プ リント	学習プ リント	学習プ リント 観察
3 学 期	1	4	○世界の諸民族の 音楽を知ろう	・世界の諸民族の音楽を、身振りを伴う表現に注目 して鑑賞したり演奏したりしながら、その音楽の 表現の特徴を理解する。	学習プ リント	学習プ リント	学習プ リント 観察
	2	4	○作曲家の生涯と 作品をたどろう	・L. v. ベートヴェンの生涯と作品をたどりながら、 それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わう。	学習プ リント	学習プ リント	学習プ リント 観察
		5	○ミュージカルナ ンバーを歌おう	・ミュージカルを鑑賞し、歌詞の内容や登場人物の 心情を理解しながら、曲にふさわしい表現を工夫 して歌う。	学習プ リント 聴取	学習プ リント	学習プ リント 観察
	3	7	○アンサンブルを 楽しもう	・これまでに学んだことを活かして、楽曲を選び、 アレンジしながら他者と協働してアンサンブル 演奏し、発表する。	学習プ リント 聴取	学習プ リント 聴取	学習プ リント 観察

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・演奏の授業では、歌唱・器楽の分野で、バラエティーに富んだ音楽体験ができるようになっています。さまざまなジャンルに挑戦して、音楽を一生楽しめるような技能を身に付けましょう。
- ・創作の授業では、自分でつくった作品を発表したり、作品について互いに意見を交換したりする機会を設けています。音楽を通してプレゼンテーションの力を身に付けましょう。
- ・鑑賞の授業では、聴くだけでなく音楽の構造や文化的・歴史的背景などについても学びます。音楽的な見方・考え方を身に付けましょう。

令和5年度 芸術科

科目名	美術Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	普通科	2
学習の目標	美術の幅広い創造活動を通して美的体験を豊かにし、生涯を通じて美術を愛好する心情を育てると共に、1年生の学習で養われた能力を活かして創造的発想力、構想力をさらに高める。				
使用教材	教科書：美術2（光村図書） 副教材：学習プリント（自作プリント）				
評価	評価法	評価は、学習の取り組み状況（観察、発表）創作作品における課題進捗状況、学習プリントの記入状況などとともに総合的に判断して決定します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 造形的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	
		b	思考・判断・表現	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発送や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かⅡ関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	3	オリエンテーション	・授業の進め方や評価について理解する。 ・美術の幅広い創造活動を通して美的体験を豊かにし、感性を高め創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。	プリント	プリント	観察
	5	7	ポスタリゼーション	・身近なデザインに触れ、地元の文化について調べる。 ・滋賀をテーマに言葉から連想させ、デザインのプランニングを行う。	プリント	プリント	観察
	6	7		・レタリングとモダンテクニックを使いコラージュ技法を用いて、ポスターを制作。	作品	観察	作品
	7	3	合評	・お互いの作品を鑑賞し意見、感想を述べさす。	観察	発表	プリント

2 学期	9 10	6 10	ゼンタングル	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼンタングルとは何かを理解する。 ・模様の練習プリントで構成能力を高める。 ・自身で抽象世界を探求しテーマを決める。 ・コースター専用の厚紙にゼンタングルを使い制作する。 	プリント 作品	プリント 作品	観察 観察
	11	11	甲西高校風景画	<ul style="list-style-type: none"> ・目に見える身近な世界を観察し、鉛筆やコンテの線で表現する力を身につける ・遠近法や一点透視図法を使って空間を表現する。 ・構成力を高め、画面への配置のバランスを身につける。 	プリント 作品	プリント 作品	観察 観察
	12	3	合評	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品を鑑賞し意見、感想を述べさす。 	観察	発表	プリント
3 学期	1	2	人生すごろく	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳から16歳の自分について振り返り、17歳から20歳の未来を「言葉」にしてから「絵」にしていく。 	プリント	プリント	プリント
	2	3		<ul style="list-style-type: none"> ・マス目のデザインや背景を考えすごろく全体のラフスケッチをする。 	プリント	観察	観察
		3		<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくボードを制作。 	作品	作品	観察
		3		<ul style="list-style-type: none"> ・サイコロのデザインをラフスケッチする。 	観察	プリント	プリント
		3		<ul style="list-style-type: none"> ・紙でサイコロを制作。 	作品	作品	観察
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくの駒のアイデアスケッチを制作。 ・粘土で駒を塑像する。 	プリント	プリント	観察	
	3	3	合評 一年間を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品を鑑賞し意見、感想を述べさす。 ・制作活動や自己の作品を振り返って、どんな力がついたのか考察する。 	観察	プリント	発表

担当者からのメッセージ（学習方法など）

作品の評価は、「上手く描けている・上手く作れている」ではなく、いかに「課題のねらいに沿ったものになっているかどうか」で判断されます。特に課題の説明の時間にはしっかりと話を聞こう。作品は計画的に制作しよう。どうしても授業中に完成できなかった場合は、必ず定められた期日までに提出すること。

令和5年度 芸術科

科目名	書道Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	2
学習の目標	<p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
使用教材	<p>教科書：光村図書「書Ⅱ」 副教材：自作プリント</p>				
評価	評価法	作品・作品意図カード・振り返りシートを観点別に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	
		b	思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 書体の変遷と古代の文字を知る。(鑑賞) 篆書の歴史的背景と特徴を知る。 			
		1	漢字の学習① 篆書	<ul style="list-style-type: none"> 基本線の筆法 逆筆藏鋒を習得する。 	作品		
		1		<ul style="list-style-type: none"> 基本の結構と筆順 「木田」で篆書独特の字形と筆順を知る。 	作品		プリント
	5	2		<ul style="list-style-type: none"> 自分の氏名を小篆で書く 	作品		プリント

	6	1 2	漢字の学習② 篆刻	<ul style="list-style-type: none"> ・氏名印の印稿を作る <ul style="list-style-type: none"> ①印のルールを知る ②印稿を鉛筆で作る 字面を考慮し印のデザインを考える。 ③印稿を筆で作る（半紙大） 小篆の筆法を守りながら印稿を仕上げる。 ・氏名印を彫る <ul style="list-style-type: none"> ①印面の整齊と印稿の転写 ②印の彫り方を知る、練習する。 ③印を彫る。 ④印影を完成させる 印箋に押印し、小筆で氏名入れる。 	作品 作品	プ リ ン ト プ リ ン ト						
		1 1 6 1					<ul style="list-style-type: none"> ・隷書の成り立ち（含鑑賞）と基本筆法 <ul style="list-style-type: none"> ①篆書から隷書への変遷を確認し、隷書の特徴を知る。 ②隷書の基本筆法を習得する。 ③波磔を習得する。 ・隷書の臨書 曹全碑「平安」 扁平な字名の特徴を確認する。 創作 曹全碑の中から集字して半紙に創作をする。 	作品 作品	プ リ ン ト			
		2 2 2								<ul style="list-style-type: none"> ・隷書で創作をする <ul style="list-style-type: none"> ①楷書「有志」を隷書で創作する ・隷書の筆法を活かして書く。 ・扁平な字形にする工夫を知る。 ・書初め展覧会に出品しよう！ <ul style="list-style-type: none"> ①隷書で新年にふさわしい漢字1字を書く。 ・隷書の特徴を生かし、創作する。 ・字形を変化させ、紙面に余白を作る。 ②余白を活かし、細字で一言入れる。 ③出品準備をする。 ・作品選び、出品券貼付、押印など。 	作品 作品	プ リ ン ト
		2 6 4 2 1										
11	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で学んだ書体から好きな書体で創作作品を創る <ul style="list-style-type: none"> ①撰文・集字・構想 ②練習 ③作品完成・押印 ④軸装 鑑賞会 グループで相互評価し合う 	作品	プ リ ン ト									
12				<ul style="list-style-type: none"> ④仮名の基本線の練習①～⑤ ⑤いろはの練習 ⑥川柳を短冊に書く 	作品 作品	プ リ ン ト プ リ ン ト						
2 1 1 1							<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で学んだ書体から好きな書体で創作作品を創る <ul style="list-style-type: none"> ①撰文・集字・構想 ②練習 ③作品完成・押印 ④軸装 鑑賞会 グループで相互評価し合う 	作品	プ リ ン ト			
3 2										<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で学んだ書体から好きな書体で創作作品を創る <ul style="list-style-type: none"> ①撰文・集字・構想 ②練習 ③作品完成・押印 ④軸装 鑑賞会 グループで相互評価し合う 	作品	プ リ ン ト
3 4 2 2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で学んだ書体から好きな書体で創作作品を創る <ul style="list-style-type: none"> ①撰文・集字・構想 ②練習 ③作品完成・押印 ④軸装 鑑賞会 グループで相互評価し合う 	作品	プ リ ン ト									
2				<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で学んだ書体から好きな書体で創作作品を創る <ul style="list-style-type: none"> ①撰文・集字・構想 ②練習 ③作品完成・押印 ④軸装 鑑賞会 グループで相互評価し合う 	作品	プ リ ン ト						
3 2							<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で学んだ書体から好きな書体で創作作品を創る <ul style="list-style-type: none"> ①撰文・集字・構想 ②練習 ③作品完成・押印 ④軸装 鑑賞会 グループで相互評価し合う 	作品	プ リ ン ト			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

芸術科書道は、整った文字の美しさだけを追求する授業ではありません。幅広い表現活動としての「書」を味わい、書をとおして「自分らしい表現」が出来るようになることが目標です。基礎的な知識や技能を習得し、今伝えたい思いを表現できるようになりましょう。

令和5年度 外国語科

科目名	英語コミュニケーションⅡ		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	4
学習の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの5つの能力を養う。				
使用教材	教科書：BIG DIPPER English Communication Ⅱ 副教材：BIG DIPPER English Communication Ⅱベーシックノート BIG DIPPER English Communication Ⅱワークブック				
評価	評価法	課題考査・定期考査、実技テスト、小テスト、授業課題・提出物、授業態度等を総合して評価します。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	英語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きについての知識を深め、その知識を土台に、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	知識および技能を活用して課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにむけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	35	L1. Why Don't You Come to School in Pajamas?	受動態【復習】／不定詞【復習】／〈助動詞+be+過去分詞〉【復習】	小テスト	小テスト	小テスト
	5		L2. Is Seeing Believing?	関係代名詞の限定用法【復習】／関係代名詞の継続用法①/SVO (0 = wh-節)／現在完了【復習】／過去完了【復習】	中間考査	中間考査	振り返りシート
	6		L3. Do You Get Enough Sleep?	仮定法過去【復習】／関係代名詞 what【復習】／関係副詞 when／関係副詞 where【復習】	小テスト	小テスト	小テスト
	7		L4. Do You Want to Speak English like a Native Speaker?	関係代名詞の継続用法②／関係副詞 why【復習】／SV0102 (02 = that 節)	スピーチ発表	スピーチ発表	スピーチ発表
2学期	9	48	L5. Universal Design: Convenient for All	現在分詞の分詞構文【復習】／進行形の受動態〈be 動詞+being+過去分詞〉／関係副詞 where の継続用法／形式目的語 it	課題考査	課題考査	課題考査
	10		L6. Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer	SVC (C=現在分詞/過去分詞)／受動態の分詞構文／〈助動詞+have+過去分詞〉／SVOC (C=過去分詞)	小テスト	小テスト	小テスト
	11		L7. Learning from Nature	省略／動名詞の意味上の主語／未来進行形〈will be+～ing〉／完了形の不定詞〈to have+過去分詞〉	中間考査	中間考査	中間考査
	12		L8. The Wisdom of Preserving Food	スピーチ発表	スピーチ発表	スピーチ発表	
					期末考査	期末考査	振り返りシート

3 学 期	1	L9. The Sharing Economy: Something for everyone?	仮定法過去完了 / <as if+S' + 仮定法過去> / Without ~ / 命令文 (レシピ) 【復習】	課題 考查	課題 考查	課題 考查
	2	L10. Sand and Concrete: A Basis of Our Life	未来完了 <will have+過去分詞> / 無生物主語構文① <enable+0 (人)+to-不定詞> / SVC (C = that 節) / 無生物主語構文② <make +0 (人)+原形不定詞>	小テスト	小テスト	小テスト
	3	Power Up Section (LESSON 1~10)	関係副詞 when の継続用法 / 複合関係代名詞 whatever / 倒置 ※各レッスンについて、さらに理解を深める10の題材	スピーチ 発表	スピーチ 発表	スピーチ 発表
				期末 考查	期末 考查	振り 返り シート

担当者からのメッセージ (学習方法など)

- ・ 予習・復習を習慣づけよう。
- ・ 授業に集中しよう。
- ・ ペアやグループ学習に積極的に参加しよう。
- ・ 文構造や文法事項を理解し、フレーズごとに前から後ろへ英文を理解できるようになろう。
- ・ 積極的に発表や質問をしよう。
- ・ 提出物は不備のないように仕上げ、期限をしっかりと守って提出しよう。

令和5年度 外国語科

科目名	論理・表現Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの3つの能力を養う。				
使用教材	教科書：「BIG DIPPER English Logic and Expression I」(数研出版) 「BIG DIPPER English Logic and Expression II」(数研出版) 副教材：「BIG DIPPER English Logic and Expression I レッスンノート」(数研出版) 「BIG DIPPER English Logic and Expression I ワークブック」(数研出版) 「BIG DIPPER English Logic and Expression II ワークブック」(数研出版) 「BIG DIPPER 高校英語」(数研出版)				
評価	評価法	予習の状況、授業中の態度、小テスト、提出物等を加味し、定期考査を中心に、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についての3つの観点から総合的に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを伝えあったりするための基本的な語句や、論理の構成、展開を理解している。	
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにおけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	2	BIG DIPPER English Logic and Expression I Lesson 18	関係代名詞の基本用法(限定用法)について学ぶ。名詞に説明を加える概念、非制限用法、関係代名詞 what について学ぶ。学んだ関係代名詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	中間考査小テスト	中間考査小テスト	振り返りシート
		4	Lesson 19	関係代名詞 what、関係代名詞の継続用法(非制限用法)、関係副詞、関係副詞の継続用法(非制限用法)について学ぶ。学んだ関係詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	中間考査小テスト	中間考査小テスト	振り返りシート
	5	4	Lesson 20	仮定法過去・仮定法過去完了・願望を表す用法、仮定法の重要表現、if 節の代わりになる表現について学ぶ。学んだ仮定法の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	中間考査小テスト	中間考査小テスト	振り返りシート
		2	Lesson 21	等位接続詞、名詞節を導く接続詞、副詞節を導く接続詞の用法について学ぶ。学んだ接続詞の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末考査小テスト	期末考査小テスト	振り返りシート
	6	2	BIG DIPPER English Logic and Expression II Lesson 1	現在形・過去形の内容を理解し、練習問題を通じて時制の動詞のパターンを定着させ、ライティング・スピーキングなどの自己表現活動につなげる。	期末考査小テスト	期末考査小テスト	振り返りシート
		2	Lesson 2	未来表現の内容を理解し、練習問題を通じて時制の動詞のパターンを定着させ、ライティング・スピーキングなどの自己表現活動につなげる。	期末考査小テスト	期末考査小テスト	振り返りシート

2 学 期	6	3	Lesson 3 My Dear Friend	完了形概念を理解し、練習問題を通じて時制の動詞のパターンを定着させ、ライティングなどの自己表現活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
	7 8	1	1学期の復習 夏休みの課題		課題 考查	課題 考查	
	9	3	Lesson 4 A dog in a Barbershop	助動詞のそれぞれの意味や用法を学ぶ。文脈に応じた適切な助動詞の使い分けを学び、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	中間 考查 小テスト	中間 考查 小テスト	振り 返り シート
		3	Lesson 5 Japanese food	受動態の意味や用法を学ぶ。助動詞、進行形や完了形と複合されたパターン、注意すべき受動態の用法についても学ぶ。学んだ表現を使って、話す・書くというアウトプット活動につなげる。	中間 考查 小テスト	中間 考查 小テスト	振り 返り シート
	10	3	Lesson 6 Volunteer Activities	不定詞の基本用法の使い方を学び、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	中間 考查 小テスト	中間 考查 小テスト	振り 返り シート
		2	Lesson 7 A Stage Actor	不定詞の意味上の主語、原形不定詞の理解・練習を行う。さらに、不定詞の重要表現について学ぶ。学んだ用法を基に、話す・書くというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
		2	Lesson 8 I like singing	動名詞の主語や補語、目的語としての使い方を学ぶ。学んだ動名詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
	11	3	Lesson 9 Cycling	現在分詞と過去分詞の違い、分詞の形容詞に近い使い方を学ぶ。さらに補語になる用法や分詞構文について学ぶ。学んだ分詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
		2	Lesson 10 My New Hiking Boots	動詞の比較変化、原級・比較級の基本用法について学ぶ。学んだ比較級の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
		2	Lesson 11 The Yangtze River	比較の慣用表現、最上級の意味を表す表現について学ぶ。学んだ比較の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
	12	1	冬休みの課題		課題 考查	課題 考查	
	3 学 期	1	2	Lesson 12 My sister's Job	関係代名詞の基本用法（限定用法）、名詞に説明を加える概念、非制限用法、関係代名詞 what について学ぶ。学んだ関係代名詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト
		3	Lesson 13 In Kansas City	関係代名詞 what、関係副詞、関係副詞の継続用法（非制限用法）について学ぶ。学んだ関係詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
2		2	Lesson 14 Dreaming of Space	仮定法過去・仮定法過去完了について学ぶ。学んだ仮定法の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
		2	Lesson 15 An Android Like you	願望を表す用法、仮定法の重要表現、if 節の代わりになる表現について学ぶ。学んだ仮定法の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
		2	Lesson 16 I left My Smartphone	時制の一致、話法の用法について学ぶ。学んだ用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
3	1	春休みの課題		課題 考查	課題 考查		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・ 予習・復習を習慣づけよう。
- ・ 音読を入れよう。
- ・ 積極的に発表や質問をしよう。
- ・ 仲間と共に課題を解決しよう。
- ・ 提出物は期限を守って提出しよう。

令和5年度 家庭科

科目名	家庭基礎		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>				
使用教材	<p>教科書：家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)</p> <p>副教材：生活ハンドブック 資料&成分表 (第一学習社)</p>				
評価	評価法	定期考査、課題プリント、提出物、自宅学習課題、授業態度等を総合して評価する。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とする。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	9	自分らしい人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深める。 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫する。 生涯発達の視点で青年期の課題を理解する。 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。 	定期考査・実験実習	課題プリント ・グループワーク ・実験実習	課題プリント ・グループワーク ・実験実習 ・授業態度
	5	5	子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるために基礎的な技能を身に付ける。 子どもを生み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。 			
	6	3	高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と社会環境について理解し、生活支援の基礎的な技能も身に付ける。 			

1 学期	7	1	共に生き、共に支える ホームプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。 ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ・家庭や地域及び社会の一員として自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察する。 ・新聞記事の切り抜きから、家庭と社会の関わりを理解する。 			
2 学期	9	14	食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むための知識と技術を身につける。 ・安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える 	定期 考査 ・ 実験 実習	課題 プリント ・ グループ ワーク ・ 夏課題 ・ 実験 実習	課題 プリント ・ グループ ワーク ・ 夏課題 ・ 実験 実習 ・ 授業 態度
	10						
	11	9	衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の役割を理解する。 ・被服表示を参考に、目的に応じた被服入手と着装ができるように、また手持ちの被服を長期的に着用することができるように、被服の材料や管理、洗濯や手入れについて科学的に理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 			
	12		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。 			
3 学期	1	5	住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身につける。 ・気候や風土の違い、時代の変化によって異なる住文化について理解する。 	定期 考査 ・ 実験 実習	課題 プリント ・ グループ ワーク ・ 冬課題 ・ 実験 実習	課題 プリント ・ グループ ワーク ・ 冬課題 ・ 実験 実習 ・ 授業 態度
	2	10	経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察する。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理し、責任ある消費者としての行動を考察し、工夫する。 ・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、安全安心な生活と消費について考察し、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるようライフスタイルを工夫する。 			
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

家庭基礎は、自分自身を見つめ、自分を取り巻く環境のあらゆる事柄について学ぶ分野です。各自の家庭生活や地域の生活に関心を持ち、問題意識を持って生活してほしいと思っています。さらに、授業で学んだ知識を家庭生活で応用・実践してほしいです。そうすることで、今後必要となる生活力が身につき、自身の生活がより豊かになります。

目標は自立です。18歳で成人することを自覚し、授業を通して自立した大人として生きていける準備をしていきましょう。また、授業に集中すること、積極的に発表すること、ペアワーク・グループワークに積極的に取り組むこと、提出物は不備なく仕上げ、期限をしっかりと守って提出することなど、授業に対しても自立して取り組んでもらいたいと思います。